

第3回科学技術政策研究所機関評価委員会（第5回会合）議事概要

日時：平成18年3月29日（水）9:00～11:00

場所：三菱ビル 9階 964・965会議室

（出席者）

機関評価委員：池上委員長，小林委員，隅藏委員，高橋委員，都河委員

政策研究所：國谷所長，桑原総務研究官，今井総括，佐々木課長，犬塚課長，飯島課長

事務局：科学技術政策研究所企画課 安達補佐，小野山
（財）未来工学研究所 菊田，大竹

（発言者：○…機関評価委員，●…科学技術政策研究所関係者）

1. 機関評価委員によるフリーディスカッション

■NISTEPの方向性について

《「行政部局からの具体的要請に即応した調査研究（短期）」と「行政部局からの具体的要請がなくとも将来を見据えた調査研究（中・長期）」への取り組み》

- 前回機関評価では、「NISTEPへの期待は益々増大しており、今こそ存在をアピールすべき時となっている。このため、次の5年間は「政策志向型」を第一の優先度として調査研究活動に取り組むべきである。」とされ、レビュー調査等に優先度付けがなされた。また、それに即して取り組みがなされたことは評価できる。
- 今後は、第3期基本計画が始まり、CSTP（カスタマー）からの要請が減るだろう。そのような中で、「行政部局からの具体的要請に即応した調査研究（短期）」と「行政部局からの具体的要請がなくとも将来を見据えた調査研究（中・長期）」への取り組み方について議論して欲しい。最初の数年間は、科学技術政策研究についての理論的・方法論的な研究や過去のデータを活用した政策論議に資する研究に、もう少しウエイトを置くことが、より力を高める、より高いレベルでの基本計画のフォローアップができるのではないかと。

《“政策志向型”とは》

- これまでは“政策志向型”でよかったかもしれないが、これからも“政策志向型”という認識でいってよいか。政策志向とすると、行政の価値観に基づく科学技術政策に資するデータの提供が中心となり、短期的機能となってしまう可能性がある。今後、NISTEPは何を担うのか。

《行政部局》

- 現時点で考えると、一義的には文部科学省が親元となるが、政策を作るのは CSTP である。
- 縦割りの中でどうしたらよいか。

《調査研究活動》

- 海外に情報発信を行い、それを通じて自分の姿を見ることは有効である。
- トップクラスの研究者同士の議論をやって欲しい。
- 産業界は、産業政策には関心があるが、科学技術政策には関心がないかもしれない。産業界の科学技術政策まで含めてはどうか。

《政策提言のハブ機能を担う》

- 大小様々な組織で科学技術政策についての提言が行われている。これらを一覧できる場所があると、提言する者、政策決定する者にとっても意味がある。
- 社会との接点は大切であり、それら政策提言をまとめる政策提言のハブ機能を NISTEP が担ってもよいのではないか。

■プレゼンスの向上

- 社会のアクセタンスを目的とするようなシンポジウムの開催も効果があった実例として加えるべきである。

■外部資金について

- 国の重要な研究所という立場であるなら、極論では外部資金は必要ないのではないか。本来、政策研究を進めていく上で外部資金に頼るべきではないと考える。
- この研究所における外部資金とは何か。振興調整費は外部資金と呼んでいいのか。外部資金を取ることによりどうなるのか。

■人材育成・確保

- 科学技術政策研究人材の育成では若手の育成がよく言われるが、50 歳、60 歳代で科学技術政策研究ができるプロの人材のレベルが世界と比べて低く、人材もいない。
- 50 歳、60 歳で科学技術政策研究ができるプロの人材を育てる教師となって欲しい。日本で科学技術政策に責任のある人が、切磋琢磨し、力をつけて欲しい。

■他機関との連携

- NISTEP は科学技術政策研究に従事する研究所としているが、他の政策研究大学院大学等の機関で行っている政策研究とどのような関係となっているのか。

- 今後どのような機関と、どのような連携を図るべきか。どんな機関がどんな科学技術政策研究を行っているかという全体のマッピングをした上で、NISTEP はのポジションを明らかにして欲しい。

■アウトプットについて

- 技術予測調査は今後も継続して続けて欲しい調査である。ただ、デルファイ調査については、質問票のスリム化や新しい視点の導入などをしないと、アンケートを書く側も興奮しない。
- 今後は、アンケートを書く側も含め、パフォーマンスが上がるようなまとめ方を検討して欲しい。ヨーロッパも必ずしもうまくいっていない。
- 例えば、今回の第3期基本計画の策定において重点4分野継続の裏付けをしたのが良かったのかどうか、というような根本的なことも次回に向けて考えてみる価値がある。